

積立期間中に基準価額が下落し続けた場合、  
評価額がプラスに転じるのは基準価額がいくらするとき？

A:約10,000円

B:約7,500円

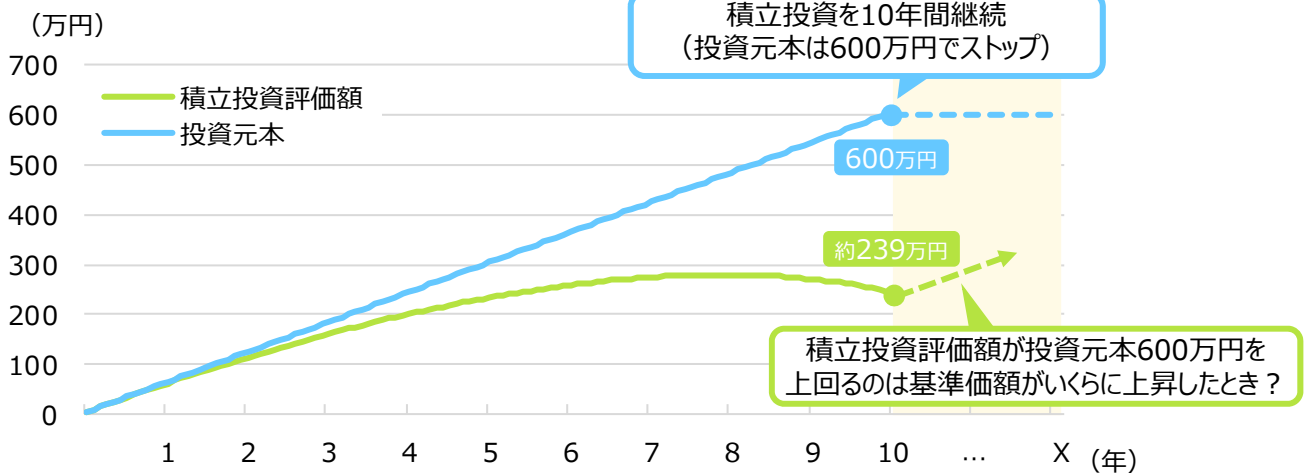
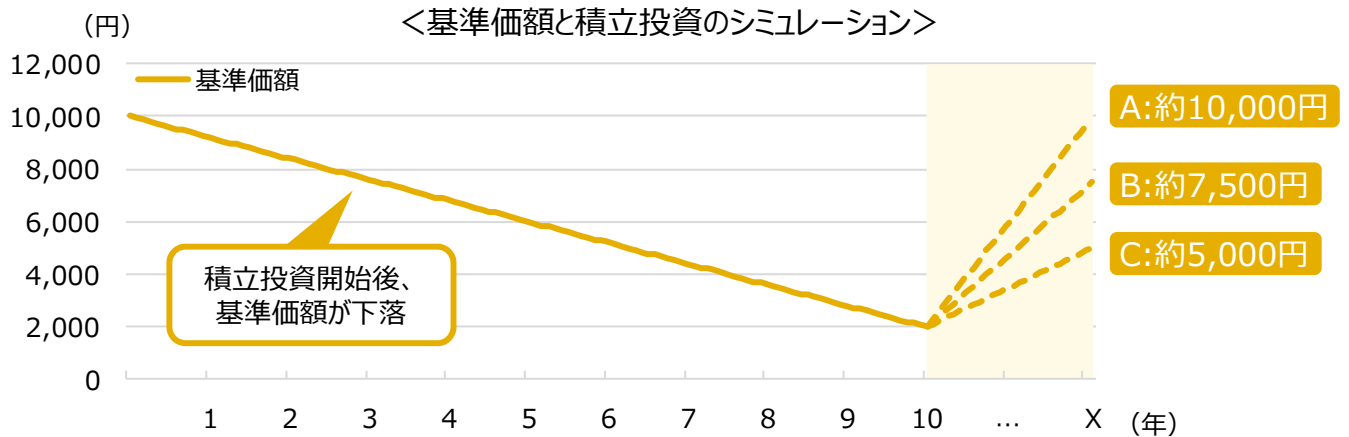
C:約5,000円

投資信託に積立投資を行っているとき、保有する投資信託の基準価額が大きく下がると、不安に感じ、解約を検討することもあるかもしれません。

例えば、毎月投資信託に5万円を積立投資していたものの、積立開始時は10,000円だった基準価額が積立投資開始10年目に2,000円まで下がってしまったとします。

その後、基準価額が上昇に転じたと仮定した場合、基準価額がいくらまで上昇すれば、積み立てた投資信託の評価金額が投資元本を上回るでしょうか。

＜毎月5万円を投資信託に積立投資した場合＞



※積立投資は一定金額を毎月末に投資したと仮定して計算しています。ただし、最終月は投資しません。  
 ※上記は一定の前提条件に基づき試算したものであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものではありません。  
 ※この資料の最終ページに重要な注意事項を記載しております。必ずご確認ください。

A.

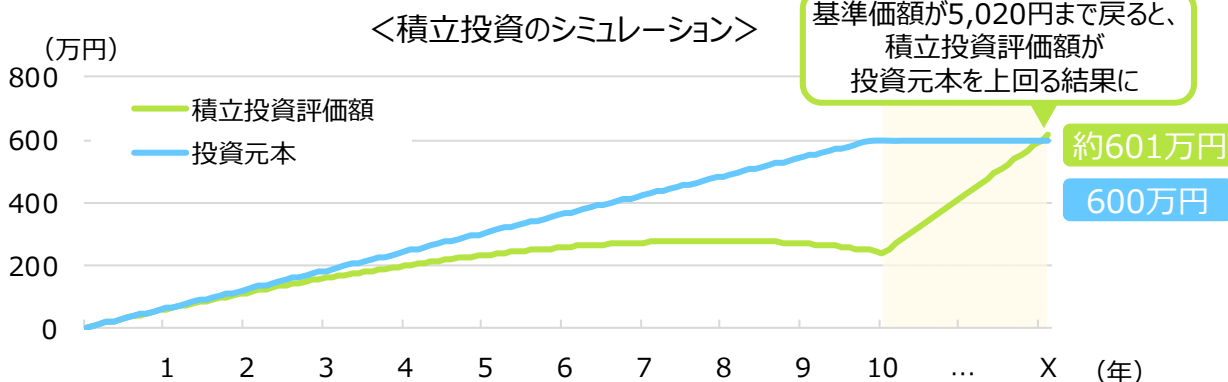
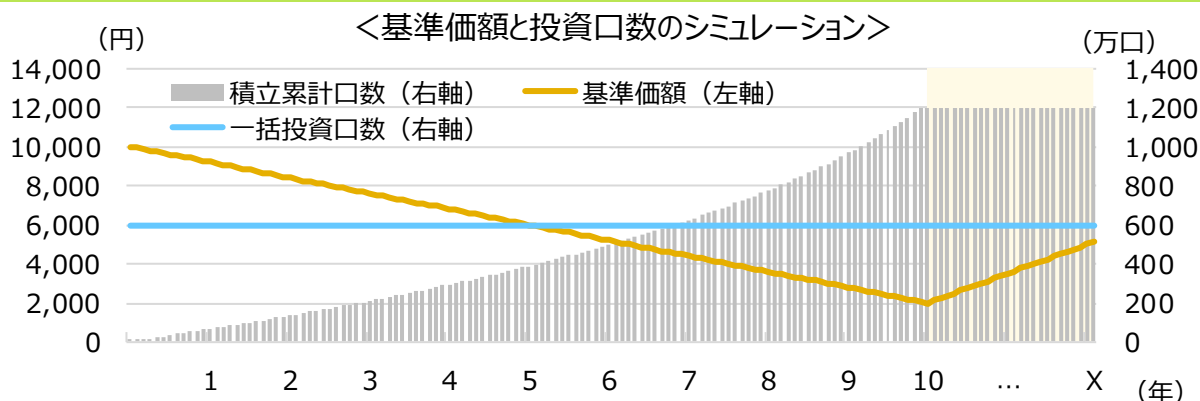
正解は C:約5,000円

基準価額が下落して元の価額に戻らなくても、積立投資評価額はプラスになることがあります。

もし、投資開始時に600万円を一括投資した場合、投資口数は相場環境に関わらず一定となりますが、積立投資の場合は基準価額が下落している局面で口数を多く購入することが出来るため、基準価額が約5,000円に戻った段階で、投資元本を確保することができます。さらに、基準価額が10,000円まで戻れば、積立投資評価額は約1,200万円まで上昇します。

このように、日々の値動きに一喜一憂せず、長期的に積立投資を行うことが、積立投資のポイントとなります。

<下落局面に多く積み立てていた分、上昇局面の恩恵享受が期待できる>



※積立投資は一定金額を毎月末に投資したと仮定して計算しています。ただし、最終月は投資しません。  
 ※上記は一定の前提条件に基づき試算したものであり、実際の投資成果ではありません。また、将来の運用成果等を示唆あるいは保証するものでもありません。

【重要な注意事項】

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DS アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績および将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。